

各地の便り

大阪府における畜産環境対策について

大阪府環境農林水産部農政室 推進課畜産振興グループ

1. 大阪府のあらまし

大阪府は、日本のほぼ中央部に位置し、府内は更に33の市、10の町、1の村に分かれています。

面積は約1890平方キロメートルで全国土の0.5%しかなく、都道府県で2番目に小さいですが、人口は約880万人と全国の7%を占め、東京都の次に多くの人々が居住しています。

地形は、南北に長く湾曲しており、大阪湾に向かって開けた西側以外は三方を北摂山地、生駒・金剛山地、和泉山地に囲まれています。気候は、一般的に温和で四季の区別がはっきりしており、平均気温は16.5度、降水量は1306mmです。

2. 大阪府農業の現状

大阪府の農業は、都市近郊の立地を活かし、施設園芸など集約的な農業経営が営まれ、府民に対して新鮮な農産物を安定的に供給しています。特にしゅんぎく(生産量全国1位)、ふき(同4位)、みつば(同8位)などの軟弱野菜やぶどう(同7位)などの果樹の栽培が盛んで、全国でも有数の産地となっています。府内の総農家戸数は28,900戸(平成14年度)で、自給的農家が14,960戸と全体の半数以上を占め、全国平均26%及び近畿平均33%と比べて、高くなっています。耕地面積は15,000ha(平成14年度)で、府域面積の約8%を占めています。農地は田と樹園地が中心となっていますが、近年は畑の占める割合が徐々に高まっています。農業産出額は、383億円(平成13年度)となっており、構成割合で見ると、野菜、果実がそれぞれ全体の39%、17%を占め、全国における野菜、果実の占める割合(23%、8%)に比べ高く、大阪農業の特徴のひとつとなっています。

3. 大阪府の畜産業の現状

大阪府畜産業は、都市近郊の優位性を活かして発展し、産出額は約40億円(平成13年度)となっており、本府の農業産出額の約10%を占めています。畜産種類別粗生産額の割合は乳用牛が半数以上を占め、豚、鶏、肉用牛の順となっています。酪農については、食品産業から排出される食品副産物を飼料として活用し、生産コストの削減に努め、生乳は飲用向け販売に力をおいています。特に大阪府中部地域と泉州地域には大規模な酪農団地があり、大阪府の酪農の半数近くを占めています。肉用牛についても、酪農と同様に、食品副産物の利用を進め、梅酒工場から出る漬け梅を肉用牛のえさとして活用した「大阪ウメビーフ」の生産を推進しています。

また、養豚は、大阪では昔から食品残渣を飼料として有効活用した豚肉の生産を進める農家が多く、豚肉質研究会等を通じて、肉質の向上を図り、消費者への販売促進に取り組んでいます。養鶏農家においては、鶏卵の直販に積極的に取り組んでおり、消費者との交流を図りながら、品質の改善に努めています。また、伝統ある大阪アヒルの新品種などの大阪府独自の生産にも取り組んでいます。



写真1 梅酒の漬け梅を食べている牛



写真2 ウメビーフ 枝肉

4. 畜産環境保全に対する大阪府の取り組み

本府では都市化が進展し、人口密度の高い地域であるため、府民の環境問題に対する意識が高く、以前より環境対策を進めています。大阪府や畜産関係団体等で構成する大阪府畜産環境保全推進指導協議会と大阪府市町村、団体等で構成する地域畜産環境保全推進指導協議会を設置し、相互に連絡を取り合いながら、畜産農家への指導を実施しております。

家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律の完全施行後は、立入検査により、管理基準に適合しない不適切な管理を確認した場合には、大阪府が制定した「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律関係事務処理要領」に基づき、指導・助言から勧告、命令に至る行政指導を実施していく予定です。

家畜排せつ物処理施設の整備について、1/2補助付きリース事業や府単独事業等を活用し、施設整備に取り組んで参りました。平成16年度は、1/2補助付きリース事業が4件、府単独事業3件、自己資金4件の合計11件の施設整備を実施しました。

簡易対応を実施した農家では、今後、恒常的な施設整備を進めるよう指導する予定です。

また、堆肥の流通促進にも積極的に取り組んでおり、大阪府堆肥共励会・土づくり講習会の開催や、大阪府家畜堆肥マップの発行により、畜産農家が生産堆肥の品質向上に取り組むと共に耕種農家への利用促進の啓発に努めています。今後とも、土づくりに大阪府の家畜堆肥が有効活用されるよう耕畜連携を推進していきたいと考えております。



写真3 大阪府堆肥共励会に展示された家畜堆肥



写真4 土づくり講習会 会場風景

